3) 最終カンファレンスについて

- (1) 研修に関すること
- ①教育計画について

全員が、講義により知識を深めさらに新しい知識も得ることができ、とても有意 義であったと答えられた。さらに、疾患に関する講義をもっと行ってもらいたい、 と思った。特に、泌尿器科、胃・十二指腸の疾患の病態生理と治療について講義を 希望する声もあった。

「看護」に関しては、症例を通したグループワークをもっと行うとよかったのではという意見があった。

②個人評価表について

評価基準が、[A.+分できる B.+分ではないがほぼできる C.不十分である D.全くできない E. 実践する機会がなかった]で、実践レベルの評価では、<math>B評価 と C評価にかなりの間があり、評価し難かったという意見があった。また、評価 項目を理解と実践のレベルに分けてあると評価しやすいのではないかという意見 もあった。

③研修期間について

講義と実習の間が6日(土日祝日入れて11日)あったが、間延びしたという感じもしたようであった。しかし、さらに長期間となると、講義が臨床に活かせなくなるという意見もあった。

④その他要望など

駐車場に迷うことがあり、駐車禁止の紙を貼られたこともあったため、研修生用の駐車許可書のような物を発行して欲しいという希望があった。また、宿舎などの調整が必要なので、実習場所が決まっていれば、早くにその情報が欲しいという希望もあった。

(2) 今後の活動計画について

- ①研修生 A ・緩和ケアチームでの活動に参加する。
 - ・がん患者の精神的ケアの重要性を伝達する。
 - ・薬剤部とも協力して、看護師へ抗がん剤曝露の危険性を伝え、安全 に取り扱いできるよう環境を整えたい。

②研修生 B ・終末期ケアを深め、緩和ケアチームの一員として活動していく。

・マニュアルの見直しを行い、その作成に協力する。

- ・自分のコミュニケーション能力を磨く。
- ③研修生 C ・症状緩和ケアに関する知識を深める。
 - ・倫理的側面を重視した意思決定支援を行う。
 - ・緩和ケアチーム活動を活発にし、STASS を取り入れる。
- ④研修生 D ・ がん患者への心理的関わりの重要性を伝える。
 - ・院内での伝達講習会をシリーズで行う。
- ⑤研修生 E ・終末期ケアは一般病棟でもできることを伝える。
 - ・チームカンファレンスや Dr.カンファレンスなど情報提供を行い、ファシリテーターの役割を果たす。
- ⑥研修生 F ・部署での勉強会を行う。
 - ・部署内で有効なカンファレンスができるよう支援を行う。
 - ・この学びを学生指導に活かす。
- ⑦研修生 G ・ 臨床でセルフケア支援を深めたい。
 - ・患者の心理的な変化を理解し、自立を邪魔せずに支援したい。
 - ・部署での勉強会を行い、症状アセスメントの方法などを指導する。
 - デスカンファレンスを見直す。
- ⑧研修生 H ・カンファレンスが有効になるよう積極的に関わる。
 - ・学んだことを伝達し、スタッフのレベルアップを図る。

<研修主催者より>

皆さんには「①がん患者さんを支える」「②がん患者を支えるスタッフを支える」という 2 つのミッションがある。それらを達成するために、1 つはプロセスレコードでの学びを思い出し、しっかり「聴く(傾聴)」ことで、患者の自己受容と自己決定を支援して欲しい。 その際には、常に「患者さんがどうなれば良いのか」を考えることが大切である。

もう1つは、技術や知識の伝達をしようとする時、きっと困難な場面に遭遇すると思う。 その際は、「何のためにそれをしようとしているのか?」に立ち戻って考え、声に出し、仲間を増やしていって欲しい。

6. 平成21年度フォローアップ調査結果およびフォローアップ研修

1) 平成 21 年度事業実施概要

平成21年度の実施要項について以下に示す。

研修期間: 平成21年10月5日(月)から平成21年11月27日(金)

受講者数:8名

参加病院:小野田赤十字病院2名、山口大学医学部附属病院1名、

美祢市立病院1名、山口県済生会下関総合病院1名、 総合病院社会保険徳山中央病院1名、山口労災病院1名、

岩国市医療センター医師会病院1名

平均年齡:36.1才

平均経験年数:13.0年

2) フォローアップ調査実施方法

(1)「フォローアップ調査票」別紙3を使って、推薦者に依頼した。

- (2) 研修終了約6か月後(平成22年6月)、1年後(平成22年12月) に実施した。
- (3) 6ヶ月後、1年後調査とも全7施設(8名)より回答を得た。

3)調査結果

回答結果を表8、9に示す。回答施設においては、6カ月後までに研修の報告・伝達はほとんどの受講生が実施していた。また、6か月後・1年後とも上司は研修生の活動を支援しており、新たな取り組みを開催した施設もあった。その取り組みは院内研修の開催、緩和ケアチームの立ち上げ、実習指導などがあった。

研修生の認定看護師等の資格の取得については、6か月後の回答では、平成22年度認定看護師教育課程受講予定者が3名おり、1年後の回答では1名は教育課程在籍中、2名が教育課程を修了し、認定資格試験に向けて準備をしていた。また、1年後の回答でも、3名(37.5%)が将来的に取得を考えているという結果であった。

受講生は研修後も施設内でがん看護に関する活動に携わっており、施設からの評価も高かった。

研修受講後の課題として、研修生のモチベーションの維持のためにフォローアップ やレベルアップ研修があればよいという意見があった。現在実施しているフォローア ップ研修の内容に方法ついても再考する必要があると考える。

4) フォローアップ研修結果

「中間評価・事例検討」の日にフォローアップ研修を兼ねて、研修終了後の活動などを報告しあい参加者間で情報交換をする時間を設けた。

参加した 4 名全員が研修受講後の報告を実施していた。報告は、病棟会、病棟勉強会、緩和ケアチーム勉強会などで行っていた。また、放射線治療合同研究会を立ち上げ、マニュアルの作成を行ったものもいた。

また、研修受講後、部署内の化学療法点滴の準備や廃棄方法が変わり統一できた(2名)、 エンゼルケアの方法について伝達講習などを行い、院内に統一できた(1名)、チーム活動 を行う中で、同意書の整理を実施した(1名)、認定看護師との連携を図るようになった(1 名)、自分の今後の活動方向がはっきりし、自己学習も進んでできるようになった(1名)、 患者との関わりを大切にするよう自分自身が変わり、スタッフも変化しているように感じ る(1名)、年間で計画を立てて勉強会をするようになった(1名)などの意見がでた。

今後の活動に関する抱負では、以下のような意見が出た。

- ・チーム医療の大切さを実感しており、患者との関わりに他職種を交えたい。
- ・病棟毎に連携が図れるようなシステムを作りたい。
- ・緩和ケアチームの活動を充実させたい。
- ・スピリチュアル面でのフォローができるよう自己学習を深めたい。
- デスカンファレンスやグリーフケアへの取り組みを行いたい。
- ・認定看護師との連携を深め、がん看護、緩和ケアの向上に繋げたい。

また、「中間評価・事例検討」にも参加し、研修時の体験や現在の活動について報告 し、研修生との質疑応答を行った。現在の活動報告などを聞き、今後の自己の活動に 関する多くの示唆を得ることができた。

表8. 平成22年度実施事業フォローアップ調査結果(第1回)

(n=8)

研修者施設用

記入者

記入者職位

		正八名	配入有戦型
	項目	評価	意 見
1	受講者は、他の看護師に対し研修の報告・伝達を実 施しましたか	①実施 6(75.0%) ②未実施 2 (25.0%)	②の理由 機会を与えられていない
2	質問 1 で「①」と回答した場合、それはどのような 方法で実施しましたか	①書面で提出 ②会議·研修会で報告 3(37.5%) 4(50.0%) 3その他 1(12.5%) 病棟勉強会を実施	
3	研修後、受講者はがん看護への関わり方が深くなっ ていますか	①はい 7(87.5%) ②変化なし 1(12.5%)	
4	職場において、受講者が、研修の伝達や新たな活動 (質問6など)を実施しようとした時に上司とし て、理解を示し、協力していますか	① 協力している ② 協力していない。 8(100%)	
5	貴施設で新たにがんに関する事業(取組み)が実施 されましたか	① 実施 3(37.5%) ②未実施 5 (62.5%)	
6	質問5で「①」と回答した場合、すでに取り組まれている事業はなんですか	 ① 院内において研修会が企画・開催された 2(25.0%) ② 緩和ケアチームの立ち上げ 1(12.5%) ③ 地域との連携が開始 1(12.5%) ④ 患者会に患者様を紹介したり、会のサポート活動に取り組むなどの連携が開始された。 1(12.5%) ⑤ その他・1(12.5%) 	
7	質問6で取り組んだ事業があると回答した場合、受 講者はその事業に協力できていますか	① 協力できている ②協力していない 1(12.5%) 2(25.0%)	250 000 000
8	受講者はその後がん看護の認定看護師等の資格を取得(受験) しましたか	 取得した 取得に向けて準備中 3(37.5%) 将来的に取得を考えている。 4(50.0%) 取得は考えていない⑤ その他() 	

その他、本研修に関するご意見を自由にお書きください.

- ・認定看護師資格取得に向け準備中である(3名 緩和ケア認定1名・化学療法1名ほか)
- ・認定看護師の資格取得に向けた動機付けになっている
- ・認定看護師の講義を聞け相談などができておりよい
- ・自施設では経験できない看護体験ができ、知識だけでなくモチベーション向上がみられる
- ・研修期間は派遣可能でありよいと思う
- ・公的に報告する機会を設けることで受講者の意識も変わり、さらに研修の認知度を上げることができる考える
- ・学会など積極的に参加している

表9. 平成22年度実施事業フォローアップ調査結果(第2回)

(n=8)

研修者施設用

施設名	

			記入者	記入者職位
	項 目	評	価	意見
1	受講者は、他の看護師に対し研修の報告・伝達を実 施しましたか	①実施 7(87.5%)	②未実施 1 (12.5%)	②の理由 ・定例の報告者が多く組 み込めない
2	質問1で「①」と回答した場合、それはどのような 方法で実施しましたか	①書面で提出 3(37.5%) ③その他	②会議·研修会で報告 5(62.5%)	・伝達講習として教育委員会主催の報告をした
3	研修後、受講者はがん看護への関わり方が深くなっ ていますか	①はい 8(100%)	②変化なし	・他チームの患者へも積極的に関 わっている
4	職場において、受講者が、研修の伝達や新たな活動 (質問6など)を実施しようとした時に上司とし て、理解を示し、協力していますか	① 協力している 8(100%)	② 協力していない。	
5	貴施設で新たにがんに関する事業(取組み)が実施 されましたか	① 実施 4(50.0%)	②未実施 4 (50.0%)	・認定資格取得後に取り組みを考えている ・緩和ケアチームの勉強会やカンファレンスを毎月実施している *未回答1名あり
6	質問5で「①」と回答した場合、すでに取り組まれ ている事業はなんですか	 2 緩和ケアチーム 3 地域との連携が 4 患者会に患者様ポート活動に取り約れた。 5 その他 	4(50.0%) の立ち上げ 2(25.0%) 開始 1(12.5%) を紹介したり、会のサ 目むなどの連携が開始さ	(その他は具体的に書いて下さい) ・市内訪問看護ステーションとの連携によりターミナル期の在宅療養が 実現している
7	質問6で取り組んだ事業があると回答した場合、受 講者はその事業に協力できていますか	① 協力できている 3(37.5%)	②協力していない 1(12.5%)	・緩和ケアチームの一員として活動 している
8	受講者はその後がん看護の認定看護師等の資格を取得(受験) しましたか	①取得した ② 1 (12.5%) ③将来的に取得をま ④ 取得は考えてい ⑤その他	3 (37. 5%)	・勤務場所の異動があった ・現在緩和ケア認定看護師教育研修 受講中

その他、本研修に関するご意見を自由にお書きください.

- ・緩和ケア認定看護師の教育課程を修了し5月の試験に向けて準備中である
- ・モチベーションの継続が難しいので、フォローアップ研修やレベルアップ研修があるといい
- ・フォローアップ研修があることでがん看護の質を高く維持する意識を持ち続けることができているようだ
- ・認定などの資格取得を勧めたが、現在のところその意思はないようである。管理者としての関わり方を振り返りたい
- ・今後も定期的に開催して欲しい
- ・開催場所が遠方になることもあるため、西部・東部で交互開催などを検討して欲しい

《参考資料》

平成22年度専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業実施要綱

1 目的

がんにおける専門的な臨床実践能力を有する看護職員を育成し、山口県内のがん診療 機能を有する医療機関等の看護のレベルを向上させる。

2 事業の実施主体

山口県

3 事業の内容

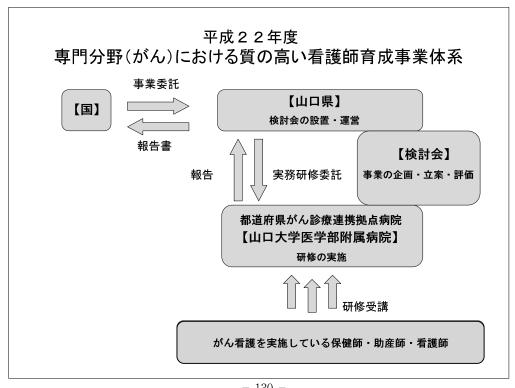
- (1) 専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業検討会の開催 専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業の企画、立案及び評価を行うた めの検討会を開催する。
- (2) 専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業(実務研修)の実施 山口大学医学部附属病院(都道府県がん診療連携拠点病院)に委託して行う。
 - ア 実施期間 原則40日間
 - イ 定 員 20名程度
 - ウ 対象者 がん看護を実施している保健師、助産師、看護師

(3)報告書の作成

専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業検討会において評価を行い、そ の結果について報告書を作成し、厚生労働省医政局看護課長あて提出する。

4 その他

関係各課、関係機関との調整を随時行う。



山口県専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業検討会設置要綱

(目的)

第1条 専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業の企画、立案及び評価を行うため、山口県専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業検討会(以下「検討会」という。)を設置する。

(検討事項)

- 第2条 検討会は、次の事項について検討する。
- (1) がん看護臨床実務研修会の企画、立案に関する事項
- (2) 上記事業の評価に関する事項
- (3) その他がん看護の質の向上に関する事項

(組織)

- 第3条 検討会は、委員12人以内をもって組織する。
- 2 検討会の委員は、医療関係者、看護関係者、看護教育関係者、看護関係団体、県行政関係者の中か
- ら、健康福祉部医務保険課長が依頼する。
- 3 検討会には、会長を置き、委員の互選により選出する。

(会長)

- 第4条 会長は、会務を総括する。
- 2 会長が不在のときは、会長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(任期)

第5条 委員の任期は、1年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の在任期間とする。

(会議)

- 第6条 検討会の会議(以下「会議」という。)は、医務保険課長が委員の参集を求めて必要に応じ招集する。
- 2 会議の議長は、会長を持って充てる。
- 3 会議には、必要に応じ委員以外の関係者の出席を求めることができる。

(庶務)

第7条 検討会に関する庶務は、山口県健康福祉部医務保険課看護指導班において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営に関し必要な事項は別に定める。

(附則)

この要綱は、平成20年 9月 1日から施行する。

平成22年度専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業検討委員会メンバー

(50音順)

氏 名	所 属	役 職 名	備 考
東 玲子	西南女学院大学	教 授	看護師
大 村 知 美	山口県立総合医療センター	看護師	看護師
岡 正朗	山口大学医学部附属病院	病院長	医師
兼安久惠	山口県看護協会	会長	看護師
齊 田 菜穂子	山口大学医学部保健学科	教授	看護師
杉 和郎	独立行政法人国立病院機構 山口宇部医療センター	副院長	医師
花田千鶴美	山口大学医学部附属病院	看護部長	看護師
原田美佐	山口大学医学部附属病院	 副看護部長 	看護師
廣瀬春美	山口県訪問看護 ステーション協議会	会長	看護師
松並久恵	綜合病院社会保険 徳山中央病院	看護局長	看護師
三 井 成 子	綜合病院山口赤十字病院	看護部長	看護師

平成22年度 専門分野(がん)における質の高い看護師育成の研修申込書

	ふり	<u>がな</u>								性別		生年月日	
	氏	名									昭和	年(満	月 日 歳)
	ડે	いりが	な							•			
		名称											
勤	部	科	名	現在勤務	してい	る部署名	名を記入						
				〒									
務													
	住	所	等										
先	.—		-										
				TEL	()	FAX	()
				E−mail	()
	先以外 急連絡月		絡先	ご本人の	携帯	番号()
	算経験 4					年		か月					
	段の特額 分の主な 序												
	8参加! ●・学び												
推薦	真理由												

上記の者を受講させたいので推薦します。

平成 22年	月	日	推薦者役職名:	
			氏 名	印

平成22年度 山口県専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業 カリキュラム

	17:00		り治療	治療	支援				٨																		 -							
-	16:00	地域との連携活動	がん性疼痛の治療	大腸がんの治療	セルフケア支援	チーム医療	 倫理的問題への対応・意思決定支援	皮膚創傷ケア	実習オリエンテーション																									
:	15:00	も域との	在宅緩和ケア		血液がんの治療	+	倫理的問題への対		がん性疼痛看護各論																									
	14:00	がん看護総論	緩和ケア		婦人科がんの治療	家族ケア	血液がん患者の看護	リンパ浮腫ケア	がん性疼痛看護総論																									
対地 こ	12:00 13:00		пш		4 大				, \$																									
	11:00	開講式・オリエンテーション	がん患者の心理過程	口腔ケア	消化器症状への看護	放射線療法看護	乳がん化学療法看護	肺がんの治療	里																									
-	10:00		乳がんの治療	嚥下障害の看護	がん医療における薬剤師の役割	放射線療法	化学療法看護	肝がんの治療	6機理論				<u> </u>						昆	昂		間評価、事例検討			湯田					昂	昆	実習	1	ケースレホート作成 一般終評価
1	雪 9:00	<u> </u>	⋠	¥	*	徘	町	×	¥		I¥	*	K	(H)		Κ×	К		田	⋠	K	④	≖ ÷	- 1								火寒	∺ +	K
	ЯВ	9月27日	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	10月4日	10月5日	10月6日	10月18日	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10 H 25 H	10月26日	10月28日	10月29日	11月1日	11月2日	11月4日	11月5日	11月8日	11 79 11	11月10日	11 8 19 日	11 B 15 B	11月16日	11月17日	11月18日	11月19日	11月22日	11月24日 11月26日	11 H Z 2 H 1

一部、変更の可能性があります。

H22年度 山口県専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業目約・展開方法と該当講義

形式	蕭 実 幾 留	華 承 幾 密	講 演 実 幾 習 習	購漁 業留留	講 実 策 羽	講領 業習習	講義 事例検討 プレゼン
内容	・がん医療に関する動向を理解する ・入院・外来における、化学療法・手術療法・放射線療法 の実際を学び、治療を受ける患者の支援方法を学ぶ ・治療期および終末期がん患者を1例受け持ち、看護過程 を展開する	・がん患者および家族の心理過程を学び、危機理論を用いて理解を深める ・受け持ち患者を通して患者と家族への支援を実践する	・がん患者に特有な苦痛症状を理解する ・症状コントロールについて学び、受け持ち患者と家族への 支援を演習および実習を通して実践する	・セルフケア能力の向上を目指した支援方法を理解する ・セルフケア支援・口腔ケア・リンパ浮腫ケア・皮膚創傷ケア・ 嚥下障害の看護を演習および実習を通して実践する	・がん医療における薬剤師の役割を理解する ・緩和ケア病棟と在宅におけるがん患者看護の実際を学ぶ ・カンファレンスの進め方を含めたチーム医療の在り方を理解する 解する ・病院施設と地域との連携のあり方を理解する	・倫理的問題への対応方法を学び、患者の意思決定に役立てる	・受け持ち事例をケースレポートとしてまとめ発表する ・修了者フォローアップ研修として、第3回受講生の中間評価・事例検討会にアドバイザーとして参加する。
講義(演習)名	・がん看護総論 ・大腸がん・肝がん・婦人科がん・乳がん・肺が ん・血液がんの治療 ・化学療法看護・乳がん化学療法看護・血液が ん患者看護 ・放射線療法 ・放射線療法	・がん患者の心理過程 ・危機理論 ・家族ケア	・がん性疼痛の治療 ・がん性疼痛看護総論 ・がん性疼痛看護各論 ・消化器症状への看護 ・呼吸理学療法	・セルフケア支援・口腔ケア・リンパ浮腫ケア・皮膚創傷ケア・嚥下障害の看護	・がん医療における薬剤師の役割 ・緩和ケア ・在宅緩和ケア ・チーム医療 ・地域との連携活動	・倫理的問題への対応・意思決定支援	・中間報告・事例検討 ・修了者フォローアップ研修 ・ケースレポート・プレゼンテーション
項目	・がん医療の基礎知識とがん医療対策 ・化学療法の実際と看護 ・手術療法の実際 ・放射線療法の実際と看護	・がん患者の心理過程・危機理論・家族機能のアセスメントと援助・悲嘆のプロセスとケア・グリーフワーク・グリーフケア	・がん性疼痛(身体的・精神的・社会的疼痛 およびスピリチュアルペインを含んだトータル ペイン)の理解 ・がん性疼痛の治療と看護 ・その他の症状に対する看護	がん患者のセルフケア支援・セルフケ能力の向上を目指した支援の実際	・がん医療における薬剤師の役割 ・緩和ケア病棟における看護の実際 ・在宅における継続看護と緩和ケアの実際 ・チーム医療のあり方と看護師の役割 ・がんにおける地域連携活動の実際	・倫理的問題への対応 ・意思決定支援	•事例検討
目的	1. がん治療の実際と看護	2. 治療経過で体験する患者・家族の危機状態に応じた精神的支援	3. がんの進行に伴う苦痛に - 対する適切なアセスメントと 症状コントロール	4. がんとの共生を支えるためのがん患者教育	5. 院内における多職種との協働および、他施設、地域との連携や協働	6. がん患者及び家族にか かわる倫理的ジレンマへの 対処	7. その色

平成22年度 山口県専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業 講義スケジュール

17:00			頁(1.5)	生科)	(1.5)	外科学)	(1.5)	認定看護師)									オープンラボ402」です
16:00	隽活動(3.0)	相村光枝·高砂真明 (山口大学看護師長·MSW)	がん性疼痛の治療(1.5)	川井康嗣 (山口大学麻酔科蘇生科)	大腸がんの治療(1.5)	帝彰一 (山口大学消化器·腫瘍外科学)	セルフケア支援(正木晴美 (山口大学がん化学療法看護認定看護師)	一厶医療(2.0)	金子美幸(山口赤十字病院がん看護専門看護師)	倫理的問題への対応・意思決定支援(3.0)	伊東美佐江 (川崎医療福祉大学)	皮膚創傷ケア(1.5)	藤井聡美 (山口大学皮膚・排泄ケア認定看護師)	実習オリエンテーション	原田・後藤	
	地域との連携活動	相村光枝· (山口大学看記	在宅緩和ケア(1.5)	原田典子 (原田訪問看護センター訪問看護認定看護師)		法認定士)	血液がんの治療(1.5)	有好浩一 (山口大学病態制御内科学)	チーム医	子美幸(山口赤十字病	埋的問題への対応	伊東 (川崎医療		(山口大学店	がん性疼痛看護各論(1.5)		*会場は「保健学科第2研究棟4階
15:00			在宅緩利	原田計問看護センタ	坪吸理学療法(3.0)	近沢三枝・山中聖美・向江剛 市長・救急看護認定看護師・呼吸療	単海がん(有少 (山口大学病			—————————————————————————————————————		(2.5)	紫子 v看護認定看護師)	がん性疼痛が	コープ コープ コープ コープ コープ (山口大学がん性)	*
3:00 14:00	がん看護総論(1.5)	齊田菜穂子 (山口大学医学部保健学科)	緩和ケア(1.5)	山田文子 (徳山中央病院緩和ケア認定看護師)	呼吸理学	近沢三枝・山中聖美・向江剛 (山口大学看護師長・救急看護認定看護師・呼吸療法認定士)	婦人科がんの治療(1.5)	網田修吾 (山口大学産科婦人科学)	家族ケア(2.0)	大村知美 (県立総合医療センターがん看護専門看護師)	血液がん患者の看護(1.5)	松永理子 (山口大学副看護師長)	リンパ浮腫ケア(2.5)	角谷博美・本田紫子 (山口大学副看護師長・乳がん看護認定看護師)	がん性疼痛看護総論(1.5)	芝田浩美 (山口宇部医療センター がん性疼痛看護認定看護師)	
12:00 13:00	同	大 憩	回	(大憩	国食	大 題	回倒	大憩	国食	大憩	回	(本語	回	大 憩	语 令	朱 鶴	
11:00	開講式・オリエンテーション	(原田・後藤)	がん患者の心理過程(1.5)	長友隆一郎 (山口宇部医療センター心理療法士)	口腔ケア(1.5)	清水香織 (山口大学歯科衛生士)	消化器症状への看護(1.5)	國次葉月 (徳山中央病院がん化学療法看護認定看護 師)	放射線療法看護(1.5)	小林美代子 (山口大学看護師)	乳がん化学療法看護(1.5)	本田紫子 (山口大学乳がん看護認定看護師)	肺がんの治療(1.5)	杉和郎 (山口宇部医療センター)	角(3.0)	尊彰 部保健学科)	
9:00 10:00			乳がんの治療(1.5)	山本滋 (山口大学消化器·腫瘍外科学)	嚥下障害の看護(1.5)	中村由子 (山口大学摂食·嚥下障害看護認定看護師)	がん医療における薬剤師の役割 (1.5)	大坪泰昭 (山口大学がん専門薬剤師)	放射線療法(1.5)	沖本智昭 (山口大学放射線科)	化学療法看護(1.5)	林 久美 (山口大学がん化学療法看護認定看護師)	肝がんの治療(1.5)	為佐卓夫 (山口大学消化器·腫瘍外科学)	危機理論(3.0)	山勢博彰 (山口大学医学部保健学科)	部、変更の可能性があります。
月日 6	9/27	町	9/28	兴	9/29	¥	9/30	K	10/1	₩	10/4	町	10/5	×	10/6	· 大	一部、変更

一部、変更の可能性があります。

平成22年度 山口県専門分野(がん看護)における質の高い看護師育成事業

実習スケジュール

36		26	徘		1	アースレポ	⊬−∠• ↑	ノフガン=	у п ;	١			
35		25	K			-{	明心学智	• 最終評価					
34		24	¥				自己	計細] ⊊	
33		22	Ħ	椛	椛	帳	帐	帳	帳	椛	帐	:虹の訪問看護ステーション(宇部市) :原田訪問看護センター(防府市) :山口赤十字訪問看護ステーション(山口市)	
32		19	徘	熊	祳	祳	祳	祳	祳	祳	慌	部(円) 11 円 1	
31		18	K	祣	祇	椛	慌	慌	祣	衹	慌	が記げ、	
30		17	¥	梊	椛	椛	慌	慌	椛	梊	慌	アーツンター(アー)	
29		16	×	梊	椛	椛	慌	慌	椛	梊	慌	護ステ語	
28		15	H	衹	椛	椛	慌	慌	椛	熊	慌	方問者 方問者 十一字	
27		12	徘	祇	椛	慌	慌	ħ	为	祇	慌	東田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田田	
26		11	*	祇	椛	慌	慌	冇	冇	祇	慌	点 原 中 日 市 二	
25		10	¥	祳	椛	慌	慌	为	为	祇	慌		
24		6	×	祣	椛	慌	慌	慌	慌	討	計 原田		
23		8	田	衹	祇	慌	慌	慌	慌	討	計原田		
22		5	徘			+	于三評価	→事例検討	i i				
21		4	*	祇	祇	椛	慌	慌	椛	冇	为	:徳山中央病院::山口宇部医療センター::山口赤十字:安岡病院:安岡病院	
20		2	¥	衹	祇	椛	慌	指 耳	世 市	化	为	療化	
19	11	1	田	椛	椛	椛	慌	把 型	世 本 中	力	ħ	4年 中 中 市 明 中 明 中 明 一 明 一 明 一 一 一 一 一 一 三 一 三 一 三 一 三 一 三	
18		29	徘	討	計原田	熊 士		慌	帳	椛	褦	衛 日 日 依 日 口 匠 匠 匠 匠 匠 匠 匠 匠 匠	
17		28	*	起車	計原田			慌	帳	椛	慌	徳子山安中部赤岡::::::::::::::::::::::::::::::::::::	
16		27	¥	和	र्भ			帳	帳	椛	慌		
15		26	¥	劧	र्भ			帳	帳	椛	熈		
14		25	Щ	劧	र्भ	熊 士	第 年	帳	帳	椛	派		
13		22	徘	安題	m 田	訪用	世 半 半	年 中	徐 日	接手	中部	属病院	
12		21	*	数 图	m 田	計原田	世 半 半	衛 中	縦 岳 日	接	中部	病:山口大学医学部附属病化:山大外来点滴室	
=		20	¥	数 图	m 田	为	为	作 日	縦 岳 日	接手	中部	大 大 大 上 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一	
10		19	¥	安 題		र्भ	र्भ	衛 田	籐 偙 日	字網		- - - - - - - - - - - - - -	
6		18	Е	数 图	職 国	为	为	衛 田	旅 日	字部		能分 二二	
8		9	¥										
7		5	×										4
9		4	田										を合う
5	10	1	徘										1日8章
4		30	*										# #
8		29	¥									配認	時間)
2		28	¥									実習施設	=288
-	6	27	田	講義	糶	職	糶	糶	羅	講義	羅		H9€×
			実習病棟	1-4西	1-5西	1-6東	1-6西	1-7東	1-10西	1-10東	2-4		引(8時間>
屋日	月	П	受講者名	研修生D	研修生H	研修生C	研修生G	研修生A	研修生E	研修生戶	研修生B		合計36日間(8時間×36日=288時間), 講義8日間を含む
			Ι		1		1	I	1			1	1

研修実施オリエンテーション

- 1. 平成 22 年 9 月 27 日 (月) から 10 月 6 日 (水) までの講義会場は保健学科第 2 研究棟 4 階オープンラボ (402 会議室) で実施する。
 - 1) 講義および実習時間

講義時間:午前9:00~12:00 午後13:00~17:30

実習時間:午前8:00~12:00 午後13:00~16:30

- ・病棟・外来点滴室実習1日目は、看護部(第一病棟2階)に7:50に集合する。
- ・病棟・外来点滴室実習2日目以降は、8:00までに各実習場所へ直接集合する。
- 2) 講義期間中、講義会場は8時40分に開場する。
- 2. 必要物品について
 - 1) 筆記用具
 - 2) 自病院の白衣、ナース靴 (サンダル不可)、ストッキング
 - ※ 研修中は名札を着用する。講義以外の研修中は、白衣を着用する。
 - ※ ワンピースの白衣を着用するときは、必ず白又はベージュのストッキングを着用し、 ソックスは避ける。
 - ※ ナースキャップは不要、髪はまとめる。
 - ※ マニキュア、装身具(香水)は禁止とする。
- 3. 研修施設について
 - 1) 国立大学法人 山口大学医学部附属病院

所在地: 〒755-8505 宇部市南小串 1-1-1

電 話:0836-22-2680

- 2) 山口赤十字病院
 - ・緩和ケア病棟
 - ・訪問看護ステーション

所在地: 〒753-8519 山口市八幡馬場 53-1

電 話:083-923-0111

交 通: JR 山口線 上山口駅から徒歩5分

- 3) 徳山中央病院
 - ・緩和ケア病棟

所在地: 〒745-8522 周南市孝田町 1-1

電 話:0834-28-4411

交 通:JR 山陽本線 徳山駅から徒歩 40 分

4) 安岡病院

・緩和ケア病棟

所在地: 〒759-6604 下関市横野街 3-16-35

電 話:083-258-3711

交 通:JR 山陰線 安岡駅から徒歩 15分

5) 虹の訪問看護ステーション

所在地: 〒755-0005 宇部市五十目山町 4-8-1

電 話:0836-33-5358

交 通: JR 宇部線 宇部岬駅から徒歩 10 分

6) 原田訪問看護センター

所在地: 〒747-0024 防府市国衙5丁目9-27

電話: 0835-25-4774

交 通:JR 山陽本線 防府駅から徒歩 24 分

7) 山口宇部医療センター

所在地: 〒755-0241 宇部市東岐波 685

電 話:0836-58-2300

交 通: JR 宇部線 岐波駅から徒歩 20 分

4. その他

1)修了証書について

研修の全課程を修了した者には、修了証書を交付する。但し理由の如何にかかわらず4日以上欠席した場合は除く。

2) 休憩室・昼食について(山口大学医学部附属病院)

山口大学医学部附属病院 保健学科第2研究棟4階オープンラボ(402会議室) を利用する。第一病棟2階に売店、食堂、自動販売機あり。

3) 更衣室について(山口大学医学部附属病院)

第二病棟2階 研修生室 (各自にロッカーを貸与)

※その他の実習施設に関しては、実習開始1週間前にグループの代表者が実習施設・看護部長(訪問看護センター長)に連絡を取り、服装・集合場所・時間等の確認をする。

※貴重品は各自で責任を持って管理し、いずれの施設でもロッカーは必ず施錠する。

4) グループワーク・自己学習について

山口大学医学部附属病院 保健学科第 2 研究棟 4 階オープンラボ (402 会議室) を利用する。 5. 研修に関する問い合わせ先

山口大学医学部附属病院 看護部 副看護部長 (教育担当) 原田美佐

継続教育支援室看護師長 後藤直美

住所: 〒755-8505 宇部市南小串 1-1-1

電話:0836-22-2680 ファックス:0836-22-2758

保健学科第2研究棟4階オープンラボ(402会議室)の使用について

- 1. 1階の出入り口は平日は20時まで開錠されている。(休日は使用できない。)
- 2.4階会場へは、必ずエレベーターを使用すること。
- 3. トイレは4階のトイレを使用すること。(他の階のトイレは原則使用禁止。)
- 4. 会場での飲食は可能。
 - *研修期間中は臨時のごみ箱を設置しますので、ごみの分別にご協力下さい。
- 5. 備品(ノートパソコン、プロジェクター、マイクなど)は勝手に使用しないこと。
- 6. 研究棟内には研究室がありますので、他の階の見学などはできない。また、移動時は 静かにしすること。

山口県専門分野 (がん) における質の高い看護師育成事業 < 評価の実施要項>

1. 目 的

- 1) 本研修の効果測定
- 2) 次年度事業展開・運用方法への反映

2. 評価方法

1) 個人評価 : 受講者の目標に対する到達度を測定する。

2) 事業企画評価: 目的に即した事業企画であるか査定する。

3) フォローアップ調査(業務への反映度の測定)

: 受講生が研修の成果を所属施設で活用できているかを測定する。

3. 具体的な手順

- 1) 個人評価 ①「個人評価票」別紙1により、受講者による自己評価を行う。
 - ② 評価の時期および回数は、前半終了時の中間評価、研修終了時の全体評価の計2回行う。
- 2) 事業企画評価 ①「事業企画評価票」別紙2により、受講者、受講者の所属施設 長(または看護部長)に対して調査を行う。
 - ② 評価の時期は研修終了後とするが、必要に応じて、他の時期にも行うことができる。
- 3) フォローアップ調査(業務への反映度の測定)
 - ①「フォローアップ調査票」別紙3により、受講者に依頼する。
 - ② 評価の時期は、研修終了6か月後、1年後とする。

コゲン

研修者名	最終 自己評価																														
	コメント																														
	中間 自己評価																														
個人評価表	評価項目	・がん医療の基礎知識とがん医療対策について理解できる	・化学療法の実際(治療)を理解できる	・化学療法を受ける患者の看護を実践できる	・手術療法の実際(治療)を理解できる	・手術療法を受ける患者の看護を実践できる	・放射線療法の実際(治療)を理解できる	・放射線療法を受ける患者の看護を実践できる	・がん患者の心理過程を理解できる	・危機理論を理解できる	・家族機能のアセスメントと援助について理解できる	・家族機能のアセスメントと援助を実践できる	・悲嘆のプロセスとケア、グリーフワーク・グリーフケアを理解できる	・トータルペインの視点を理解できる	・がん性疼痛の治療を理解できる	・がん性疼痛のある患者への看護を実践できる	・その他の症状に対する看護を実践できる	・がん患者のセルフケア支援を理解できる	・がん患者のセルフケア支援を実践できる	・セルフケア能力の向上を目指した支援を実践できる	・がん医療における薬剤師の役割を理解できる	・緩和ケア病棟における看護の実際を理解できる	・緩和ケア病棟での看護活動に参加できる	・在宅における継続看護と緩和ケアの実際を理解できる	・在宅における看護活動に参加できる	・チーム医療のあり方と看護師の役割を理解できる	・がんにおける地域連携活動の実際を理解できる	・倫理的問題への対応を理解できる	・意思決定支援を理解できる	・倫理的問題への対応や意思決定支援を看護実践で活用できる	・事例展開とプレゼンテーションが実践できる
	目的				1. がん治療の実際と看護		•	•		2 治療怒温で依歸する患	者・家族の危機状態に応じ	た精神的文援			3.がんの進行に伴う苦痛したギャギを適用を持ています。	これずら過ぎなことへとしたませいとは大コントローン			4. がんとの共生を支えるた めのがん患者数音				5. 院内における多職種と	の筋働および、他施設、地	域との連携や筋働			6 がら,患者及び家権にか	かわる倫理的ジレンマへの	对处	7. その他

D. 全くできない E. 実践する機会がなかった B. 十分ではないがほぼできる C. 不十分である A. 十分できる

緩和ケア病棟用 指導者評価表

研修者名

評価者名	コメント																														
	指導者評価		//	///	///	//	\setminus	\setminus													\setminus			///			///				
緩和ケノ物傑用 指導者評価表	評価項目	・がん医療の基礎知識とがん医療対策について理解できる	・化学療法の実際(治療)を理解できる	・化学療法を受ける事者の看護を実践できる	・手術療法の実際(治療)を理解できる	・手術療法を受ける事者の看護を実践できる	・放射線療法の実際(治療)を理解できる	・放射線療法を受ける患者の看護を実践できる	・がん患者の心理過程を理解できる	・危機理論を理解できる	・家族機能のアセスメントと援助について理解できる	・家族機能のアセスメントと援助を実践できる	・悲嘆のプロセスとケア、グリーフワーク・グリーフケアを理解できる	・トータルペインの視点を理解できる	・がん性疼痛の治療を理解できる	・がん性疼痛のある患者への看護を実践できる	・その他の症状に対する看護を実践できる	・がん患者のセルフケア支援を理解できる	・がん患者のセルフケア支援を実践できる	・セルフケア能力の向上を目指した支援を実践できる	・がん医療におけろ薬剤師の役割を理解できる	・緩和ケア病棟における看護の実際を理解できる	・緩和ケア病棟での看護活動に参加できる	・在宅における継続看護と緩和ケアの実際を理解できる	・在宅における看護活動に参加できる	・チーム医療のあり方と看護師の役割を理解できる	・がんにおける地域連携活動の実際を理解できる	・倫理的問題への対応を理解できる	・意思決定支援を理解できる	・倫理的問題への対応や意思決定支援を看護実践で活用できる	・事例展開とプレゼンテーションが実践できる
	目的				1. がん治療の実際と看護					2. 治療経過で体験する県	者・家族の危機状態に応じ	た精神的支援			3. がんの進行に伴う苦痛しておよる場合を	これが、の画がない。これが、これが、これがは、これがは、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これには、これに		1 1 2 2	4. がんとの共生を支えるた めのがん患者数音				5. 院内における多職種と	の協働および、他施設、地会、金融の主義をは	域との連携や筋側			6. がん患者及び家族にか	かわる倫理的ジレントへの	XT.20L	7. その他

A. 十分できる B. 十分ではないがほぼできる C. 不十分である D. 全くできない E. 実践する機会がなかった

訪問看護ステーション用 指導者評価表

評価者名

研修者名

ナメバ 指導者評価 ・悲嘆のプロセスとケア、グリーフワーク・グリーフケアを理解できる ・倫理的問題への対応や意思決定支援を看護実践で活用できる ・在宅における継続看護と緩和ケアの実際を理解できる ・セルフケア能力の向上を目指した支援を実践できる ・家族機能のアセスメントと援助について理解できる ・チーム医療のあり方と看護師の役割を理解できる ・がんにおける地域連携活動の実際を理解できる ・緩和ケア病棟における看護の実際を理解できる ・がん性疼痛のある患者への看護を実践できる における薬剤師の役割を理解できる ・放射線療法を受ける患者の看護を実践できる ・手術療法を受ける事者の看護を実践できる ・家族機能のアセスメントと援助を実践できる ・その他の症状に対する看護を実践できる ・がん患者のセルフケア支援を理解できる ・がん患者のセルフケア支援を実践できる 放射線療法の実際(治療)を理解できる ・化学療法を受ける患者の看護を実践 ・手術療法の<u>実際(治療)を理解できる</u> ・在宅における看護活動に参加できる 評価項目 ・倫理的問題への対応を理解できる ・トータルペインの視点を理解できる ・がん患者の心理過程を理解できる ・がん性疼痛の治療を理解できる ・化学療法の実際(治療)を理解 ・緩和ケア病棟での看護活動に ・意思決定支援を理解できる がん医療の基礎知識とが、 ・危機理論を理解できる ・事例展開とプレ **灰梅**[・がん 5. 院内における多職種と の協働および、他施設、地域との連携や協働 2. 治療経過で体験する患者・家族の危機状態に応じた精神的支援 4. がんとの共生を支えるた めのがん患者教育 かむる倫理的ジフントへの がん患者及び家族にか 1. がん治療の実際と看護 こ対する適切なアセスメン がんの進行に伴う苦痛 いがポコントローラ 目的 7. その他

D. 全くできない E. 実践する機会がなかった C. 不十分である B. 十分ではないがほぼできる A. 十分できる

研修者名

がん病棟用 指導者評価表

	かん物傑用 有得有評価教		評価者名
目的	評価項目	指導者評価	コメント
	・がん医療の基礎知識とがん医療対策について理解できる		
	・化学療法の実際(治療)を理解できる		
	・化学療法を受ける患者の看護を実践できる		
1. がん治療の実際と看護	・手術療法の実際(治療)を理解できる		
	・手術療法を受ける患者の看護を実践できる		
	・放射線療法の実際(治療)を理解できる		
	・放射線療法を受ける患者の看護を実践できる		
	・がん患者の心理過程を理解できる		
2 治療経過で体験する集	・危機理論を理解できる		
者・家族の危機状態に応じ	・家族機能のアセスメントと援助について理解できる		
た精神的支援	・家族機能のアセスメントと援助を実践できる		
	・悲嘆のプロセスとケア、グリーフワーク・グリーフケアを理解できる		
	・トータルペインの視点を理解できる		
3. がんの進行に伴う苦痛しずおよる強性を持ちない。	・がん性疼痛の治療を理解できる		
いる。うらから、こくく、トン流米コントロード	・がん性疼痛のある患者への看護を実践できる		
	・その他の症状に対する看護を実践できる		
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	・がん患者のセルフケア支援を理解できる		
4. がんとの共生を支えるたるのがん、患者数音	・がん患者のセルフケア支援を実践できる		
	・セルフケア能力の向上を目指した支援を実践できる		
	・がん医療における薬剤師の役割を理解できる		
	・緩和ケア病棟における看護の実際を理解できる		
5. 院内における多職種と	・緩和ケア病棟での看護活動に参加できる		
の筋働および、他施設、地	・在宅における継 結看護と緩和ケアの実際を理解できる		
域との連携や協働	・在宅における看護活動に参加できる		
	・チーム医療のあり方と看護師の役割を理解できる		
	・がんにおける地域連携活動の実際を理解できる		
6. が3. 患者及び家族にか	・倫理的問題への対応を理解できる		
かわる倫理的ジアンマへの	・意思決定支援を理解できる		
对 校	・倫理的問題への対応や意思決定支援を看護実践で活用できる		
7. その他	・事例展開とプレゼンテーションが実践できる		

A. 十分できる B. 十分ではないがほぼできる C. 不十分である D. 全くできない E. 実践する機会がなかった

専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業

< 事 業 企 画 評 価 >

別紙 2 受講者用

施設名 氏 名

評	価	項	B		評	価		意	見
1. 研修計画									
1)教育計画	(1)	カリキュラム							
	1) [目標の設定につ	いて	1 適切	2 適切でない				
	24	研修内容(全般	() について	1 適切	2 適切でない				
	39	実習内容につい	・て	1 適切	2 適切でない				
	48	講義について		1 適切	2 適切でない				
	_	講義の必要性に 『生労働省は、基本	こついて 的に講義は実施せず、	1 必要	2 講義は実施し	んなくてもよい			
	臨床	ミ実務研修を中心と	とする方針がある。)						
2)研修期間	(1)	時期・間隔				••••		••••	•••••
	1)#	時期について(.10月~12月)	1 適切	2 別の時期がよ (月頃)			
	26	研修間隔につい	·T	1 40日連続	2 前期・後期に	二分ける			
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·			3 週1~2日ずつ	分散 4 その他	()		
3)研修体制	1	担当者・施設	について						
		担当者の配置		1 適切	2 適切でない				
2. 募集方法・受詞		施設面について		1 適切	2 適切でない				
2. 券来刀法·文章 1) 受講条件			 務条件について						
「)文碑木什				1 適切	2 引き上げる				
		主歌 十 奴 に フリ・	C (3 + Ø ±)	3 引き下げる)		
	②#	 動務条件につい	 \T			 ていることを条件とす			
		3133X111V				わず就業していれば。			
						んに関連する業務に就			
				ていた者も対象 4 その他(TOTAL TOTAL S)		
2) 通知機関	(1)	通知機関につ		1 全医療機関に			······································		
左 /		世 州 阪 内 1 〜 ~	.			関にのみ通知する			
					リニックまで通知で				
				4 その他(— , , o	, .c)		
3)募集期間	(1)	募集期間(3	週間)について	1 適切	2 長期にとる ((具体的に)		
4)募集方法			知のみ)について	1 文章にて通知			·····		
	(複数	汝回答可)		3 インターネッ	, 4 その他()		
5)定員について	(1)	定員(20名)について	1 適切である	2 多い ()	Ī		
				3 少ない (人がよい)				
3. 研修の位置づけ	ナ (資 [†]	格取得は無い	<u>v)</u>	1 現行のままで	きよい				
(ライセンス等の資格	がなく、	一般研修である	ことについて)		いらの修了書の発行				
					受講資格要件の研	研修とする			
				4 その他()		
4. 研修実施医療機関				1 適切	2 適切でない				
平成20年度事業の実施			<u></u>	┃ 継続したはっ	かよい2 継続し	なくてもよい3 わか	らない		
事業企画に対するご意	₹見を日	」田にお書き下	さい						

専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業について

(平成22年度)

別紙 3 研修者施設用

施設名 山口大学医学部附属病院

く フォローアップ調査 > (第 回)

			記入者	記入者職位
		ı		
	項目	評		意見
1	受講者は、他の看護師に対し研修の報告・伝達を実施しましたか	① 実施	② 未実施	②の理由
	質問1で「①」と回答した場合、それはどのような 方法で実施しましたか	① 書面で提出 ③ その他(② 会議・研修会で報告)	
3	研修後、受講者はがん看護への関わり方が深くなっ ていますか	① はい	② 変化なし	
4	職場において、受講者が、研修の伝達や新たな活動 (質問6など)を実施しようとした時に上司とし て、理解を示し、協力していますか	① 協力している。	② 協力していない。	
5	貴施設で新たにがんに関する事業(取組み)が実施 されましたか	① 実施	② 未実施	
	質問5で「①」と回答した場合、すでに取り組まれ ている事業はなんですか	 院内において研修 緩和ケアチームの 	多会が企画・開催された D立ち上げ	(その他は具体的に書いて下さい)
6		③ 地域との連携が開	射始	
			を紹介したり、会のサポー どの連携が開始された。	
		⑤ その他()	
/	質問6で取り組んだ事業があると回答した場合、受 講者はその事業に協力できていますか	① 協力できている	②協力していない	
	受講者はその後がん看護の認定看護師等の資格を取 得(受験)しましたか		② 取得に向けて準備中	
8		③ 将来的に取得を表		
マ ロ))他,本研修に関するご意見を自由にお書きください	④ 取得は考えていた	ない ⑤ その他 ()	

平成22年度専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業事務局

医務保険課	課長	村田 雅弘
医務保険課看護指導班	主幹	笠野 操
医務保険課看護指導班	主 任	林 直美
医務保険課看護指導班	保健師	倉田 恵子

平成22年度専門分野(がん)における質の高い看護師育成事業報告書

発行 平成23年3月

編集 山口県健康福祉部医務保険課

7 7 5 3 - 8 5 0 1

山口県山口市滝町1番1号

TEL 083-933-2928

FAX 083-933-2939